

# 日退教通信

No. 381

2019.1

日本退職教職員協議会

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-6-2 日本教育会館5F  
発行責任者 竹田 邦明  
TEL 03(52275)2197・FAX 03(52275)2081  
E-mail nitaikyo@gmail.com キーワードURL <http://www.nitaikyo.com>

## 「終活」から「生活」へ —そして、統一選、参院選勝利を—



年が明けても相変わらず世界的な変動は続いています。基本は、アメリカを軸にした政治・経済的な衰退とそれに替わろうとする諸国民族の葛藤と言えます。その荒波の中で日本政府(安倍政権)は右往左往し、日本国憲法の平和主義・人権尊重・立憲主義・民主主義を軽視し、社会の格差が拡大しています。

私たち高齢者はこれまで、「終活」を基本に生きてきました。それは、定年を迎えたら自らの「死」に向かい、「終活」をどう処理するかという生き方です。「終活ノート(仮)」などを作り会員に配布するなど、「死」の準備が運動の一つになってきました。

しかし、今年から国の暴走を止め、生活を守るために、「生」を運動の基調にしませんか。

現職と退職の狭間がますます不明確になる。これからは、「現退」の切れ目がなくなってきました。現退一体となって、国家の基本的任務を「富裕層から低所得層へ富の再分配」という本来の姿に戻すため力を尽くしましょう。要求の作り方、運動の作り方を従来と変えてみませんか。

第1のカテゴリーは国民の生活の基盤づくり「年金と賃金」です。高齢者の生活費用水準が現役者の5割とはとんでもないことです。貧困ラインのはるか下回る人が出るのは当然です。年金は「保険」です。これに救済機能を負わせずに年金が最低賃金水準に満たない部分は、「生活保障費」として国に補充を要求します。各国で実験が行われている「ベーシック・インカム」が参考になります。

第2のカテゴリーは「介護と子育て」です。1960年代の高度成長政策の中で私たちは政府の「都市一極集中」「持ち家政策」の攻撃にさらされました。そして「三世代家庭」は崩壊していきます。今の「年金・介護保険制度」は、1980年までの「三世代家庭」が基本で、高齢者の「独居家庭」は想定されていません。第3のカテゴリーは「医療と教育」です。持続的な社会、発達して行く社会を維持するのは必要で大切なシステムです。(メディアケアとエデュケア)

危険な安倍政権の方向を転換させるために、私たちも明確なプランを持ちましょう。「終わる事」よりも「生きる事」を！ 現退一致の理

念を現実に！「終活」より「生活」を！  
そして、統一自治体選挙、参議院選挙の勝利を手にしましょう。

19年度総会 6月7日(金)です。

みずおか俊一さんから  
—共に生き、共に支えあう社会へ—



秋になって、全国にお邪魔し現職・退職の方にお会いし親しくお話をしてきました。

どちらからも、今や7人に1人が貧困状況にある子どもの状況、年金の減少、基礎自治体の存続問題など一刻の猶予も許さない課題が山積していること、その中で現場の教職員は疲労困憊していることが話されました。日退教の先輩方の学校現場の状況、教職員の過労状況への心配の声は大変優しく、力強く受け止めました。

私たちは「教え子を再び戦場に送らない」を掲げ、立憲主義を徹底し、憲法改悪を許さないために運動してまいりました。すべての人が大切にされ、安心して生きることができ、共に支えあう社会づくりへの政策転換を求めて、政治の流れを変え努力をこれからも続けてまいります。激動の今年を日退教の方々と共に頑張ります。

# 「女性のつどい」 2018年9月11日 報告

日退教の女性たちの出会いの場、そしてジェンダー平等を実現するための交流とエンパワメントの場として始まった「つどい」は3年目を迎えました。

今年も参加者も31名（女性25名・男性9名）と今まで一番多く、活発で楽しい討論が行われました。討論になった2点について報告します。

## (1) 混合名簿

(写真は、すべてこの集いの発言者です。一部省略)

☆ 現職の時、混合名簿に取り組んだが、どのくらい広がったか自信がない。男子を「さん」で呼ぶと「君」と返されるなど男女別の意識がすりこまれている。  
(千葉・男性)

☆ 混合名簿は20年前から取り組み、男女とも「さん」が当たりまえになった。(石川)

☆ 3年前混合名簿は8%だったが、私たちが議員や教育長に働きかけ、運動した結果、校長に「混合

名簿推奨」文書がでた。最初からやっていたかのように…それで現場のとりくみがすすんだ。(沖縄)  
☆ 50年前の高校時代すでに混合名簿だった。今は社会が反動的になり「分ける」風潮がある。しかしLGBTの子どもの気持ちに敏感にならないければいけない。(岩手高)

☆ 久留米市立高校は混合名簿だが、付属は別。しかしどちらも「さん」で呼んでいる。混合名簿をLGBTの視点で考えるようになったのは最近。  
(福岡高)

☆ 日教組は1995年北京会議から混合名簿を提起した。しかし90年代後半受け入れてくれない県がずいぶんあった。(会長)  
※補足

1985年国際婦人年ナイロビ会議で男女別名簿は日本とインドだけでした。1990年には大阪府堺市(幼稚園・小学校)で混合名簿が始まり、東京国立市でも過半数の小学校は混合名簿になり、都高教女性部も混合名簿が方針になりました。このように各県では独自の取り組みが日教組方針の前から行われていました。



司会  
本村富美子さん  
(都高退)



安次嶺美代子さん  
(沖縄高退)



松原厚世さん  
(大分県退)



西田直智さん  
(石川高退)



古庄典子  
(福岡県退)



平野直比古さん  
(千葉県退)



佐伯典子さん  
(都高退)



芳賀洋子さん  
(千葉県退)



前田嘉代子さん  
(千葉高退)



能登甚五さん  
(千葉県退)



谷川則子さん  
(石川県退)



斉藤 泉さん  
(兵庫退)



城間智恵子さん  
(沖縄県退)



平山泰子さん  
(神奈川高退)



## (2) 性差別意識・家長制の社会通念

### ・女性の参画と組織

☆ 統合して2年目、会長は男性、事務局長は女性、会員は女性が多い。活動している支部ほど選挙や現職との関わりや運動の視点が広がるなど統合して良かったという声がある。(大分)

☆ 「生産性」発言など、女性参画より女性差別、障害者差別を考えるべきではないか。(石川高・男性)

☆ 男女ともに男女差別の意識が根付いている。自分にも問いかけないといけない。地域のボランティアでは圧倒的に女性が中心になっている。(千葉・男性)

☆ 「ご主人」など日常の小さなことほど掘り下げて考える必要がある。(東京高)

☆ 知人は「主人」と言う。英語では男性は「ミスター」のみだが、女性は結婚の有無で3種類ある。(千葉高)

☆ 育った環境が人格をつくるが、学習することで意識が変わっていく。しかしもともある意識が出て、それを指摘されたとき受け入れることができるかどうか大事。(兵庫)

☆ 「連れ合い」という言葉も使うことで内面化していく。地域は学校より保守的。(神奈川高)

☆ 「連れ合い」は京都では「愛人」という意味に使われることがある。だから使いたくない。(高知)



岡松育子さん  
(福岡県退)



小野寺美和子さん  
(岩手高退)



上村和代さん  
(福岡高退)



山中千枝子さん  
(高知退)



梅木禮子さん  
(大分県退)



永井光夫さん  
(神奈川高退)



北島義久さん  
(北退教)



南 良樹さん  
(鹿児島県退)



芥川治子さん  
(都高退)



山根正子さん  
(北退教)



平岡良久さん  
(都高退)

☆ 家庭が女性蔑視を刷り込む。母や友人は「家事は男がやるものでない」と強く言っていた。(北海道)

☆ 役員の女性は5名/12名中。東京医科大入試差別に対し、政府に抗議文を出す。男女差別の中で育ったが私たちは子どもたちに人権や平等を教えってきた。伝えていかなければジェンダー平等が最下位になる。(福岡)

☆ 大分の統合の歴史は参考になった。現職の組織が厳しい状況なので、退職者が支え、違いを認めながら力を合わせられる退教運動を目指している。(鹿児島・男性)

☆ 日退教の中に各県の女性担当の人が連絡や相談をできるようなネットワークが必要だと思う。(北海道)

☆ 幹事の構成は、1/3は女性にしている。女性が増え活動の幅が広がった。ジェンダー平等やセクハラ学習会を都全体の退職者会に呼びかけ共闘している。(東京高・男性)

参加者は差別の厳しさを語りながら、自分を振り返る場面が多くありました。現実から出発して討論することの大切さを感じた「つどい」でした。女性のネットワーク作りとLGBTの視点は今後の課題として取り組みに生かす必要があります。(文責 日退教副会長 本村富美子)

# 「男女共生委員会」報告 2018年11月30日



清末愛砂 准教授

ブロック代表男女共生委員、共生部会、組織部、事務局、計19名（男性7名）13単会で行いました。

（ア）ブロックのジェンダー平等の取り組み

「行政から混合名簿導入の通達！私たちは40年前からとりくんできていた」宮崎高。

「会員が 30数名で行事ができない。また高齢女性が多く、役員を引き受けてもらえない」愛媛。

「朝鮮学校の民族教育を学習。イメージスアショアの反対デモに女性高齢者も参加している」山口。

「女性の活躍を進める市の取り組みを応援し、現職女性の支えになるといい」近畿。

「運動方針に女性の参画が入った」埼玉。旧「優生保護法により不妊手術を受けさせられた女性が国を訴えた。」宮城。「女性参画を方針にした。実態としての平等を進めたい」北海道。

（イ）日退教ジェンダー平等の取り組み調査から…

総会は17名/93名中、「女性の集い」31名と昨年比べ女性の参加が増えました。しかしアンケート調査では役員への女性の参画が少し減りました。また女性役員0の単会で今後女性役員を増やす予定のないところも13単会あります。一方ジェンダー平等を方針にした単会は18と増えました。活動方針にジェンダー平等があると、役員や総会への女性の参画が進む状況も明らかになりました。

（ウ）「男女共生委員会」から「ジェンダー平等委員会」への名称変更

自民党杉田議員のLGBTへの差別発言や【女性の集い】で「LGBTの生徒の気持を！」という意見を受け、「この社会には女と男だけが存在し、異性愛が正常である」という偏見を見直す必要があると考えました。実際には性同一性障害や半陰陽の人などが存在します。この男女という性別二元論でつくられた「らしさ」や役割や権力関係を見直し、ジェンダー平等を目指していきたいと名称変更が提起されました。委員（男性）からは賛成意見が述べられました。

（エ）学習会「清末愛砂さん講演『平和主義を支える憲法24条と9条』 28名参加

憲法改悪の動きが加速する今、パレスチナ非暴力運動やアフガニスタンのフェミニスト支援をする清末さん（室蘭工業大学准教授）から平和主義の本質について学びました。報告します。

11月11日にガザに入ったが、12日夜イスラエル軍最大規模の空爆があった。それはイスラエルの安全保障・自衛の名のもとに行われている。（生々しい蝶型爆弾の被害者や瓦礫となった建物の写真）ガザは憲法の前文「全世界の国民が平和的生存権を有する」が完全に否定されている地区である。

る。日本国憲法に24条（家族の中の個人の尊厳と平等・婚姻は両性の合意のみ）があるのは大日本帝国が天皇を家長とする「家族国家観」のもと侵略戦争に国民を駆り立ててきた反省があるからである。軍事主義を拡大する国家の土台は家であり、家の中は家長支配であった。憲法24条は家の中で虐待やDVなどの支配関係により個人の尊厳が傷つけられた時の法的救済の根拠となる。これは13条（個人の尊重）14条（法の下での平等）とセットになって民法（家制度廃止・夫婦間の平等・平等相続など）の根拠条文になっている。自民党の国家観、家族観を完全否定している24条を彼らは1954年から改憲ターゲットにしてきた。だから「家族は社会の自然で基礎的な単位として尊重・助け合わなければならない」という文言を24条に盛り込もうとしている。変えさせてはならない。9条（公的領域での非暴力）と24条（家族の中の平等・非暴力）が繋がってこそ非暴力な社会＝平和をつくる。自民党案「9条に自衛隊明記」は海外で闘う自衛隊を支える社会・家族が求められ、社会が軍事化する。

## ◆編集後記◆

今号に関しては、掲載する記事が多量のため、観点を改めて記述します。「日退教通信」381号が皆様の手元に届くときには結果が出ていると思いますが、現国会にかかっている「入管法」・「水道法」の「改訂」問題について、私の「感覚」を一言。どちらも、「改訂」に必要な資料も裏付けも含め、条件が全くと言っていいほど「不揃い」なのに、臆面もなくこれを提出している国政関係者とは一体どういう「人間」なのか、ということ。 (S)